

令和5年 第8回 伊丹市教育委員会 臨時会 会議録

1. 日 時 令和5年（2023年）7月14日（金）午後2時00分～午後3時45分

2. 場 所 伊丹市総合教育センター 2階 研修室

3. 出席者 <教育委員会>

教育長	木下 誠	教育委員	二宮 叔枝
教育委員	太田 洋子	教育委員	西岡 奈美

<事務局>

教育総務部長	宇谷 敏幸	学校指導課主査	橋本 哲志
職員課長	福本 恭	学校指導課主査	堺 晶浩
学校教育部長	廣重久美子	学校指導課主査	出口 拓
学校教育部副参事	伊藤 公男	学校指導課主査	坂上 康子
学校教育部副参事		保健体育課長	宗野 伸哉
兼中学校給食センター所長	鴨川 憲之	教育政策課長	西原美絵子
学校指導課長	日外 亮	教育政策課	御影 陸大
学校指導課主査	嶋本 浩士		

<教科書図書選定委員会>

伊丹市立義務教育諸学校等教科用図書選定委員会委員長	仲 順也
伊丹市立義務教育諸学校等教科用図書選定委員会副委員長	八尾 千枝
伊丹市立伊丹高等学校教科書用図書選定委員会会長	谷口 聡

4. 欠席者 瀧川 光治

5. 傍聴人 13人

6. 議 事

(1) 開会宣言 木下教育長（午後2時00分）

(2) 日程報告 木下教育長より次のとおり会議を進める旨の発議があり、全委員はこれを了承。

日程第 1 議案第42号の審議

日程第 2 議案第43号の審議

(3) 議案第42号の審議（日程第1）

木下教育長より「令和6年度使用伊丹市義務教育諸学校等教科用図書の採択について」を議題とする旨の発議の後、「伊丹市義務教育諸学校等教科用図書選定委員会の答申に基づき、教科用図書を採択しようとするものです。」との説明がなされ、学校教育部長より補足説明があ

り、質疑応答の後、全委員一致で、「議案第42号」を可決。

◎ 調査研究の方針

「令和6年度（2024年度）使用伊丹市立学校教科用図書の採択方針」に基づき、採択替えのできる小学校教科用図書については綿密周到な調査研究を行い答申することとし、特別支援学級及び特別支援学校教科用図書（学校教育法附則第9条の規定による教科用図書）について、各学級・学校の実情に応じて調査研究を行い答申することとした。

◎ 令和6年度使用教科用図書調査研究の観点

- ① 客観的に検討し、各教科用図書の特色を公平に記述すること。
- ② 基礎的・基本的な内容の確実な定着が図れるような工夫があること。
- ③ 「主体的・対話的で深い学び」に関して取り上げられている内容について分析すること。
- ④ 学んだことを、実際の社会や生活に生かすことができるような工夫があること。
- ⑤ 児童生徒の生活体験や興味・関心に適応するとともに、多様な考え方や個人差に応じて活用できる幅があること。
- ⑥ 系統的発展が考慮されており、他の教科との関連がよく考えられていること。
- ⑦ 指導内容及び組織排列・分量が適切であること。
- ⑧ 男女共生の視点からみて適切であること。
- ⑨ 表現、さし絵、資料、取り扱う題材等が適切であること。
- ⑩ 新出文字、用語等の配置の工夫がなされ、文字の大きさ、行間及び書体が適切であること。
- ⑪ QRコード等の活用により、一人一台端末を活用することができること。

◎ 令和6年度使用学校教育法附則第9条による一般図書調査研究の観点

- ① 系統的に編集されており、各教科の主たる教材として、各教科の目標達成に適したものであるか。
- ② 上学年で使用することになる教科書との関連性があるか。
- ③ 児童生徒の障害の種類・程度・能力・特性に応じたふさわしい内容（文字、表現、挿絵、題材等）であるかどうか。
  - ア 知的機能に障がいのある児童生徒にも理解しやすく、ねらいのはっきりした内容であるか。
  - イ 集中力の乏しい児童生徒にも、理解しやすい文章や挿絵であるか。
  - ウ 情緒に障がいのある児童生徒が落ち着いて楽しめる構成、内容であるか。
  - エ 視力や視機能に障がいのある児童生徒にとって、文字や絵の大きさ、行間の広さ、

色彩などが、認識しやすいものであるか。

オ 聴覚に障がいのある児童生徒が、視覚によって言語発達を促すために役立つ内容であるか。

カ 言葉を有しない児童生徒の言語理解を育て、表出言語を引き出させる内容であるか。

キ 肢体不自由の児童生徒が取り扱いやすく、かつ、破損しにくい紙質、版型、装丁であるか。

- ④ 基本的な生活習慣が身につく内容であるか。
- ⑤ 児童生徒の生活経験を広げ、興味・関心を喚起する内容であるか。
- ⑥ 児童生徒の主体的な活動を促す内容であるか。
- ⑦ 教科書無償給与予算の関係から、価格が妥当と考えられるか。

◎ 答申の内容

小学校教科用図書について、上記の観点に基づき調査研究がされており、別紙に掲示された教科書につき、選定委員会所見として、下記に記した教科書を「採択することがふさわしいと判断する。」との報告がされた。

〈選定委員会所見〉

- |            |               |
|------------|---------------|
| ①国語（国語）    | 「光村図書出版」の継続使用 |
| （書写）       | 「光村図書出版」の継続使用 |
| ②社会（社会）    | 「日本文教出版」の継続使用 |
| （地図）       | 「帝国書院」の継続使用   |
| ③算数        | 「啓林館」の継続使用    |
| ④理科        | 「啓林館」の継続使用    |
| ⑤生活        | 「啓林館」の継続使用    |
| ⑥音楽        | 「教育芸術社」の継続使用  |
| ⑦図画工作      | 「日本文教出版」の継続使用 |
| ⑧保健        | 「東京書籍」の継続使用   |
| ⑨外国語（第5学年） | 「東京書籍」を新たに採択  |
| （第6学年）     | 「開隆堂」を継続使用    |
| ⑩道徳        | 「光文書院」を新たに採択  |

次に、特別支援学級の教科書について、上記の観点に基づき調査研究がされており、別紙に掲示された教科書につき、選定委員会所見として、「特別支援学級に係わる調査委員会の調査研究結果が厳正にして適切なものであると認め、令和6年度使用伊丹市立学校教科用図書として採択することがふさわしいと判断する。」との報告がされた。

次に、伊丹特別支援学校の教科書についても、上記の観点に基づき調査研究がされており、別紙に掲示された教科書につき、選定委員会所見として「伊丹特別支援学校(小学部、中学部、高等部)に係わる部会調査員会の調査研究結果が厳正にして適切なものであると認め、令和6年度使用伊丹市立学校教科用図書として採択することがふさわしいと判断する。」との報告がされた。

質疑応答

太田委員 教科用図書を採択するにあたって、タブレットの使用については考慮されたのだろうか。

仲委員長 QRコードのリンクについては持っているスマートフォンで確認をした。

太田委員 音楽で伴奏を流したり、英語の発音を確認したりするなど、QRコードを活用することで非常に便利になるが、QRコードばかりに頼るのではなく、デジタルとアナログをどのように使い分けて授業を組み立てていくのかが、今後の課題だろう。

仲委員長 非常に大切な問題だ。今後の授業改善に生かしていかなければならない。

太田委員 採択理由の中にSDGsがいくつも見られた。それだけ、今後必要とされる内容であり、総合的な学習の時間も含め、計画的に学習すべきではないか。各教科で都度取り扱うのではなく、教科横断するようなカリキュラムを組む。年次計画の中で繋がりがあるようにしていただきたい。

二宮委員 採択理由を見ていると、生活科においては、指導のところに重点を置いているのかと思ったが、教科書を見ているとそうでもないのだろうか。就学前の現場がどうなっているのか、そしてその続きとして、学校で何を学ぶのかというような子どもの状態をふまえて採択いただいたのだと理解したい。あと、算数の教科書が最初だけ薄かった。子どもたちが初めて出会う教科書なので、幼少接続という観点からもう少し説明してほしい。

仲委員長 幼少接続は非常に大切な問題だ。例えば、啓林館の「わくわくせいかつ・上」巻頭の「がっこう だいすき 1ねんせい」というスタートカリキュラムをご覧いただきたい。子どもたちにとって幼児期の学びは新鮮で楽しくて大切なものである。これらを思い起こしながら、そして、それを生かしながら

学びに入っていく。幼児期の学びを大切に、楽しく安心して学校生活を始められるように配慮されている。

太田委員 今回、英語が採択替えということになっているが、英語は小・中の繋がりが大切だ。最近、小学校の英語が必修化された一方で、英語嫌いの生徒が増えているという報道をよく目にする。中学校の先生も調査に入っていたはずだが、そのあたりに関する意見をうかがいたい。

仲委員長 報告の中に、単語量の問題があった。今の開隆堂、そして新しい東京書籍の単語量の違い。東京書籍はデジタルディクショナリーを併せると1000語以上ある。そのため単語の不足はない。

太田委員 過去形など難しい内容が6年生で実施されていて、その段階でしんどくなると、中学校でも嫌いになる。どのように履修させて英語を面白いと思ってもらいながら中学校に進学してもらうかが大事だ。学校のほうに見にいていただくなど、小学校英語教員の指導力向上に努めていただきたい。単語量が多いのはいいが、覚えていかないといけないし、多いだけでは意味がない。

木下教育長 まず感想だが、今回QRコードが全教科充実している。英語も発声を聞いたら明快で分かりやすい。映像も写真も綺麗で、興味や関心がわく。何度も繰り返し勉強し学習の定着が図れる。家庭学習に活かすことができる。そこで、本市の子どもたちの抱える課題、国語と算数と外国語と道徳について質問する。まず、国語においては、本市の子どもたちの課題は、自分の考えを相手に分かりやすく伝える表現力が不足していることだ。また、言語活動の充実を図ることだ。これらの観点から光村図書が優れているところはどこか。

仲委員長 言語能力の育成について、2年生以上の教科書の巻末を見ていただきたい。どの学年にも「言葉の宝箱」がある。これは伝えたいことに合う言葉を探すという意味を持っている。また、その前のページにある「学習に用いる言葉」。これは国語で使う言葉の意味を確かめたいときに使う。そしてその前のページにある「考えや気持ちを伝える言葉」。これは考えが伝えやすくなる言い回しを探す。どの巻末にもこのようなページがついている。人物や出来事を説明するとき、あるいは自分の考えを伝えるときの言葉がまとめられている。

木下教育長 伝えたいことを伝える語彙力を育むのに最適であることがよく理解できた。次に算数。本市の子どもの課題に家庭学習が充実していないことがあげられるが、自発的な学習に取り組める啓林館の工夫を教えてください。

仲委員長 まずQRコードが分かりやすく構成されている。QRコードを開くと、動画や動かせる動画、あるいは解説動画などさまざまな動画がある。立体の単元では説明しづらいものも動画で分かりやすく説明されている。6年生の教科書の102ページを見ていただきたい。円柱の体積や円錐・角錐の体積などの学びに適していると考えられる。また、家庭学習においては、巻末に「学びのサポート」というページがある。このページには、「もっと練習」「学びをつなげよう」というそれぞれのコーナーがある。「もっと練習」は、個に応じて学習内容の定着を図るコーナー、「学びをつなげよう」は、履修事項とのつながりを確認するコーナーだ。特に「もっと練習」は教科書に載っている問題と同レベルのものと、それより少し難しいものがあり、自発的かつ発展的な学習を自宅でも行うことができる。

木下教育長 大事なことは、この教科書を丁寧に使うことだ。各教師が独自の使い方をするのではなく、委員長が紹介したコーナーなどを全て活用することが大切だ。次に、英語。本市の子どもの課題は、英語の授業が楽しくないということだ。初めて英語に触れる中で、いかに興味・関心を持って学ぶかが大切だ。先ほど、「コミュニケーションを楽しむ」といっていたが、英語嫌いを生まないという観点から児童の興味・関心を高める手立ては他にないか。

仲委員長 6年生の巻末にコミュニケーションカードがついている。発表ややりとりの際に使用するものだ。カラーや厚紙になっており、リアリティーを追求したものになっている。これは子どもたちのやる気を起こさせる作りになっているのではないかと思う。切り取り線があり、あるいはデジタル教科書では自分で書き込んでいくようなコミュニケーションカードもある。

木下教育長 これらは事務局へのお願いだ、英語はそれほど難しくないと子どもたちが思えるよう現場の先生方の指導をお願いしたい。最後に道徳。本市の課題は低学年のいじめの認知件数の増加だ。低学年において、どのようないじめの教材を取り扱っているのかを教えてください。

仲委員長        2年生の教科書をご覧いただきたい。2年生の教科書18ページ「どうしよう くつかくし・わるぐち」など身近に起こりうることについて当事者の立場にたって気持ちを考えたり、なぜいけないのかを考えたりする。20ページ「泳げないリスさん」17ページの「いじめを生まない心、心のもやもや、どうしよう」。17ページから23ページ、教材2つとコラムという連続性によって、より一層の確かな効果を受けることができるだろう。

木下教育長        丁寧に展開していけば効果は出てくるだろう。現場の指導が大切だ。

#### (4) 議案第43号の審議（日程第2）

木下教育長より「令和6年度使用伊丹市立伊丹高等学校教科用図書の採択について」を議題とする旨の発議の後、「伊丹市立伊丹高等学校教科用図書選定委員会の答申に基づき、教科用図書を採択しようとするものです。」との説明がなされ、学校教育部長より補足説明があり、質疑応答の後、全委員一致で、「議案第43号」を可決。

##### ◎ 調査研究の方針

「令和6年度（2024年度）使用伊丹市立伊丹高等学校教科用図書の採択方針」に基づき、中立的な立場で調査研究を行い、答申することとした。

##### ◎ 令和6年度使用教科用図書調査研究の観点

- ① 学習指導要領の趣旨に従い、本校における興味・関心、意欲、適性、能力等を十分考慮し、教育課程実施上最適であるものを選定する。
- ② 教科ごとに教科書の記述内容の研究・調査を実施し、さらに地域社会等を考慮し、総合的見地から選定する。
- ③ 各教科から推薦のあった教科書を、本校の教科用図書選定委員会において再検討を加え、公正を期す。

##### ◎ 答申の内容

第1学年の国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、情報、商業、第2学年の国語、地理歴史、数学、理科、芸術、外国語、家庭、情報、商業、第3学年の地理歴史、公民、数学、理科、芸術、外国語、商業、家庭、情報について採択替えを行い、その他の教科については現行の教科書を継続使用したいとの説明がなされた。

##### 質疑応答

木下教育長        令和6年度には3学年全てが新教育課程になるが、今回の選定において新

学習指導要領の主旨をふまえた学力の伸長という視点がどのように反映されているのか教えていただきたい。

谷口会長            選定におきましては、トップページにある選定の方針の通りに、生徒の興味・関心、意欲、適正、能力等を十分考慮し、選定を行っている。本校は大学進学を目指しており、令和4年度では大学進学率が83.2%となっている。また、学力の伸長、市の保証の観点を採択に含んでいる。たとえば、より深い内容、それから関連性を取り扱うといったことを選定の要因としており、主体的・対話的で深い学びが実現できるようICTを活用する新たな学びに対応するコンテンツをたくさん取り揃えている教科書を選定している。センター試験から共通テストに変わったばかりだが、早くも2025年度からは情報1の共通テストが始まる。そのような変化も含め、新教育課程に完全移行する令和6年度以降も生徒の実態、大学入試の動向に注視し、最適な採択を引き続き行っていく所存だ。

太田委員            情報Iの教科書を見たところ、内容の専門性が高いように感じられるが、教科担当は専門の先生なのだろうか。

谷口会長            正規の情報の担当教員が一人と、非常勤講師を雇用し、チームティーチングを採っている。授業を見に行ったことがあるが、教科書に囚われずに、動画サイトから入手した教材を手作りしたものを見せる等の工夫があり努力がみられた。

太田委員            数学Bや数学Cでも情報分析が含まれているが、そのような教科の関連性に対して、例えばプレゼンテーションの仕方を両方で学ぶ等、教科横断に取り組みられていますか。

谷口会長            これまで私が勤めた高校では、旧センター試験の数学の②のところ、数学Ⅱあるいは数学ⅡBを選択する生徒が大多数だったが、伊丹市立伊丹高校では商業科があるため情報を選択する生徒がいる。伊丹市立伊丹高校の教員には、商業と情報両方の免許を持っている人が多いので、そういった意味で商業と情報の教科横断的な学びは非常に深い。



太田委員            これからの時代、起業家教育やアントレプレナーシップ教育のようなことが必要だろう。新たなビジネスを起こそうというような発想を身に着けるための取り組みは商業科だけで行われているのだろうか。

谷口会長            主体性を育てるという意味でいえば、小学校の土曜学習への参加や、吹奏楽の地域での演奏会などさまざまなことを行っているが、起業家精神に限って言えば商業科が一番進んでいる。たとえば、昨年度伊丹市の健康福祉課とイオンリテール株式会社と本校との参画間連携し、近畿圏の86店舗で「たみまる弁当」を発売した。また、先週イオンで行われた商店経営実習に参加した。地元の伊丹で売られている洋菓子店とコラボレーションし、自分たちで開発したお菓子を販売している。そういったところで商業的な起業家精神は養っている。それが普通科に波及していくことが今後の課題だ。

西岡委員            商業について勉強する上で財務の勉強も必須だが、教科書に載っている「商品開発」と「財務会計」は同じ先生が教えているのだろうか。商品開発した後に財務会計に繋がっていくと関連性があり良いと思う。

(5) 閉会宣言 木下教育長（午後3時45分）

上記のとおり会議の要旨を記録し、ここに署名押印する。

伊丹市教育長 木下 誠

伊丹市教育委員会委員 太田 洋子